創作能『不來子先生-たたかわざる者 R・H・ブライスと H・ソロー』

(令和2年11月18日公演) 感想集

Messages on the New Noh Play, Noh:

Men Who Would Not Fight on November 18, 2020

(掲載をお断りしてない方もありますが、貴重なご意見ご感想として掲載させていただきますこと、お許しください。編集。)

先日は創作能「不來子先生」のご公演をありがとうございました。能に不勉強な私でも、事前に脚本を配布して頂いたので、すぐに世界へ入って行く事が出来ました。

不來子先生のお話は、宇宙の真理を語っているようで、暗いご時世の中に希望の光を見せて頂いたようでした。幽玄な尺八の音色と共に不來子先生の霊が現れるシーンは、本当に冥府の扉が開かれ、あの世とこの世がひとつになった様でした。いつのまにか自分も異次元の住人となり、お能の世界に浸っていました。

狂言の「梟山伏」も大変面白く、会場からも沢山の笑い声が聞こえている事から、今も昔も笑いのツボは変わらないのだなと思いました。「羽衣」の天女の舞も素晴らしかったです。コロナ禍の中、今回のご公演は皆様本当にご苦労があったことと思います。素晴らしい会をありがとうございました。

青木 香 (神奈川県)

大変僭越ながら、見事な出来栄えで感服致しました。そもそも能という伝統芸能に「新作・創作」という方法論として、シェイクスピアや今回の不來子先生を持ち込むこと自体、大変な挑戦であるはず。にもかかわらず、独自の世界観を表現できているのは大変素晴らしいことです。特に今回は中村明一さんの「倍音」を自在に操る圧倒的な尺八演奏もあり、今までにない唯一無二の作品と感じました。このブライス先生の物語は、能で表現するのが多分最もふさわしいのだと思います。宗片先生がブライス先生から授かった精神の大きさ・深さは、例えば映像など見る側が「受け身」になる表現では私たちには伝えきれないでしょう。極限まで無駄を削ぎ落とした能という表現形式、その濃縮された点と点の隙間を、観ている私たち自身が自ら埋めていくことによって初めて、宗片先生が感じておられるブライス先生の大きさ・深さに、私たちは共鳴することができるのだと感じました。今度はどんな驚きや発見があるのか、次回の公演が今から楽しみです。

青柳 倫生 (東京都)

能を見るのは30年ぶりで2度目である。能についてはよくわからないが、笛と尺八について。笛の音程は12音階ではなく、中間音が絶妙である。尺八はパークレー大学他で研修を受けただけあって、優れて音楽的。アドリブか。新作能として、未だ創作が続くことに驚きと感激があ

る。

岩城 雅典 (神奈川県)

出身地に伝統芸能として能があったので一度はその舞を見てみたいと思っていました。上京してから機会を逸していたのですが、思いがけず観ることができ喜んでおります。テーマは難しくわかりづらかったのですが、舞台、衣装、台詞、足回し、囃子などなどいろんなところで楽しめました。特に尺八の音色で異次元に連れて行かれました。幻想的で不思議な世界の中で本当にブライズ先生が現れたような気がしました。その場面は、神秘的で魂まで揺さぶられました。そして、最後、『国家は人のためにあり。全ての命を 救わん為。』

今、政治家に一番言いたいこと。そう思った瞬間でした!! **岩城 ゆう子 (神奈川県)**

先日は忙しい日常生活を送る私を別世界へと誘っていただきどうも有難うございました。国立能楽堂での一晚、夢のような空気が伝わってきました。能の表現には他にはない緊張感がありますね。今回は創作能と古典的な能の対比も良かったです。ブライス先生の物語をこのように分かりやすく哲学思想を込めて表現されたことも私には興味深く余韻となって心に残りました。

上野 和子 (千葉県)

ハーディング教授の山高帽

歌舞伎様式のシェイクスピアなど、過去に東西融合の舞台を何度か観て来たが、今回は、徹底的に「日本的」と思っていた能舞台に、西洋人を如何に演出するのか興味を持ち、観に来た。まさかスーツではあるまいと思いつつ、能衣装に「山高帽」という象徴的なオブジェをひとつ加えただけで、西洋人のハーディング教授を見事に表現し世界を作った能の懐の広さに感動した。能は、流派によって、刀の抜き方一つにしても所作が違うことを、以前習ったことがある。その時は、型へのこだわりが窮屈なものと感じたのだが、その型の厳格さゆえ、幅広く新しい試みを受け入れても基本が揺るがないのだろう。五七五と季語を守る俳句と似ている。

内村 恭子 (国際俳句交流協会会員・天為俳句会同人)

今回の公演、素晴らしかったです。以前、「ブライズ先生ありがとう」の本を頂いていたので、ブライス先生のお人柄、宗片先生のソローへの思いがとても心に響きました。”絶望の中のみ光あり”は、深く考えさせられました。中村明一さんの尺八も素晴らしく、感動しました。

小野 喜世仁 (東京都)

能楽堂観客席の構成特に通路のゆったりさと、舞台の純和風で木材での質がよい環境は、凛としたお能と合っていて清々しくて健康的に感じ精神的に落ち着きます。能装束は、やはり美しく見えて現実離れで高貴かんがでて鑑賞できます。お仕舞振り付けは、古典能と違い見せ場となる出し物がないように感じましたが、冒頭からお謡がわかりやすく聞き取りができすー

っと染み入るような穏やかさで心地良く集中できました。静止しているときの姿勢が、長時間なのにもびっくりで、止まっているのかかわらず動いているかのように錯覚もして想像が広がるのは不思議です。楽器の音が、特にツツミの高い大きな音は除夜の鐘を間近で聞いたような頭をクリアにさせられました。かすれたり強かったりの高低差ある揺れ動くような尺八の音色や、長く続けざまの吹くメロディーに、長い長い人生を語っているように聞こえてきました。

色々感じたことはありましたが、私は、廊下の入場口の五色のようなカーテンからの歩く様が不思議な錯覚を感じます。面白いと思います。今回の能面が、翁であることは間違いないですと確信しながら人物像を明確に捉えられ、ピッタリだと思いました。見終わって思い感じた心身は、世の中の騒々しさから開放された潔く明るい気持ちになったような感じと、集中して傾聴する感覚や五感がリセットされたような神経の細部まで研ぎ澄まされたようです。緊張した張り詰めた世界を観たことで、気が緩み穏やかな気持ちになれた不思議さ。

お能って、不思議です。共感というよりは、入り込んで知りたい理解したいという共鳴が生じて、自分自身で考えたり、想像広がる利点があるので興味深いです。やはり、テレビでなく生で直接に観ることが大事なように思いました。良い経験させていただきありがとうございました。

加藤 晶子（東京都）

今回の公演は昨年3月のブライス先生の新作能『たたかわざる者』の内容と少し違い、俳句を世界に広められた先生の哲学に迫るものでした。日本人にとっては何気なく表現された5,7,5の句が、これほどまでに深く禅とつながるものであることをしっかり自分の中に受け止める事が出来ました。

松尾芭蕉のいくつかの句が能舞台で謡われると、その響きの重々しさがそれぞれの意味がより一層深いものになり、理解につながった様に思います。そして、これまでにない中村明一氏の画期的な虚無僧尺八の音色は、私の心を震わせました。自分はどこにいるのだろう。全く別の世界に引き込まれ、何も考えず何も見えず、周りには誰もいない一人だけのどこかで、尺八の音色が私を取り巻いている感じの不思議な体験。気が付いてみると舞台では津村禮次郎師の演ずる不來子先生の霊の舞いが目に飛び込んできました。やっと我にかえると何か言いようのない充実感におそわれたのです。今までで一番印象に残る能舞台でした。

国際融合文化学会の事務局の一員として、ここまで公演にこぎつけるまで色々携わってきましたが、今回はコロナ感染の影響で、公演延期を余儀なくされたことから、それにまつわる作業など関係者の方々のご苦勞は大変なものだったと思います。皆様に感謝の気持ちをお伝えたいです。ありがとうございました。

木下 恵美子（静岡県）

今回は拝見できなかったのですが、『不來子先生』のプログラムを送っていただき、誠にありがとうございました。日本語と英語版、ともに台本も拝見致しました。芭蕉の俳句が能の中にいくつか織り込まれていて、とても素晴らしかったです。「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」の

場面では、芭蕉の死とブライズ先生の死の情景が重なったように思い、心に迫るものがありました。また、「古池や蛙飛び込む水の音」が使われている場面では、ブライズ先生が語る深刻な場面の中で、この一句が一時の安らぎを与えてくれるようで、とても印象的でした。また、英語の台本では、難しい単語もありつつ、とても楽しく読ませていただきました。ありがとうございます。再演、誠にありがとうございます。 **木俣 和也** (神奈川県、大学生)

宗片さん 素晴らしい新作能お送り下さいまして感謝いたしております。平和愛好の思想、戦わざる思想、がこのように美しい芸術になって広まることは、実に素晴らしいことです。ゆっくり、ゆっくり味読いたしております。中土順平社長への言及を見て涙が出ました。ほんとに素晴らしいことを戦時中にやったのですね。有難うございます。

郡山 直 (東洋大学名誉教授・日英詩人)

前略 『不來子』能に感銘しました 名手の笛と共にブライズ霊のおもむろの登場にはさぞしびれるものになったでしょう。想像するばかり。見たかったけれど上京はもう無理。貴君元気で活躍、いいですね。

それはそうと 御誌で山形(和美)君の死を知りショック、三年程前、不意に電あり、近況を話し合いました カトリックのことをよく書かれるので、聞いたらプロテスタントだというのでびっくりした思い出あります。彼の「帰天」をよく本を書き、よく動いた、立派だったとたたえたい。お元気で サイトウ **齋藤 衛** (大阪大学名誉教授)

宗片邦義先生 『不來子先生』の劇評、書いてみました。添付ファイルで送ります。よろしくお願い致します。なお(松川)真澄の感想ですが、以下の感想を書き添えておきます。真澄は来年、4月、座・高円寺で世界平和を願って戦前・戦中・戦後と反戦を訴えた秋田県出身の小説家・松田解子の生涯を描いた一人舞台『『おりん口伝』伝』(ふじた・あさや作・演出)を上演いたします。久しぶりの舞台公演です。 **平 辰彦** (尚美学園大学講師)

この度は素晴らしい機会を与えて戴き、誠に有難うございました。

又、素晴らしい脚本の下、音楽を創らせて戴き、大いなる幸せを感じました。皆様からの身に余るご意見も、この脚本、状況が有ったのことと思います。台本に導かれて、遠い異界へ旅させて戴いた感じが致します。

津村先生とも貴重な共演をさせて戴き、大変勉強になりました。有難うございました。また、学会誌へのお誘いも有難うございます。宜しく御願ひします。

中村明一 (作曲家・尺八奏者)

新型コロナの陽性者数が増えている中、多くのお客様がお越し下さいましたこと、先生なら

びにスタッフの皆様のご尽力の程と感服致しております。今回お役を頂戴しまして、前回の映像を拝見するところから始めたのですが、改訂された今回の本を拝見して、宗片先生や津村先生のより良い物を作ろうとする強い思いを感じ、僭越ながらいくつか提案させていただきました。少しでもお役に立てていたならば幸いと存じます。今後とも、よろしく願い申し上げます。

長谷川 晴彦 (能楽師・学生役)

私自身、尺八が加わったことによって、初演と全く違う舞台を拝見しているような気持ちになりました。国立能楽堂は、広々とした空間で、橋掛かりも長さがあり、今回脇正面のお席で拝見しましたが、それがとてもよかったように思いました。福田 みどり (神奈川県)

「平和を希求するブライス先生の信念が伝わってきました。核兵器のない平和な世界を私も実現したいと思っています。松川 真澄 (俳優)

私は中学校、高校時代、古文の授業の一貫として初めて能を拝見して以来でしたが、能の所作や約束事は、伝統文化なので奥が深いと思います。宗片邦義先生原作、創作能「不來子先生」公演はコロナと言う目に見えないウイルスと戦っている中、開演出来又、拝見出来た事、又、ひとときを過ごせた事は感謝し、うれしく思っております。人として慈しみ又、認め合う事が大切だと思う今日この頃です。山崎 伸子 (静岡県)

難しいテーマを日本の、それも伝統芸能のお能に創作能として作り上げられ、それをベテランのシテ方役者さんや尺八奏者さんの特別出演で、豪華で見応えのある舞台になっておりました。すっかり魅せられて、その世界に引き込まれてしまいました。終演後に残る尺八の音の余韻も美しく、いつものお能とは違った新作能を十分に楽しませて頂きました。コロナは収束どころかますます感染が広がり、演劇、音楽など芸能関係は公演の実現に、さぞや苦勞を強いられていることでしょうか。今回も振替公演になり、観客数の制限など興行面ではご負担も大きいのではないのでしょうか。それでもこうして素晴らしい舞台を催し、観客を楽しませて下さいました。ウイルスなどに負けてはいられませんね。(60代女性)

「不來子先生」は創作能という言葉がぴったりですね。思いがけず聴くことが出来た「天空に誘われる」虚無僧尺八の音に圧倒されました。今年三島由紀夫没後50年でもあり、野村萬斎さんは、三島の能を解体し、再構築するという近代能楽集を現代に置き換えて上演されているようです。お能もますます変化、進化しながら少しずつ変わっていくのかなと思いました。

(80代女性)

お能をあまり鑑賞したことはなかったのですが、「不來子先生」は、解説文もあり、わかりやすく聞きやすいと思いました。創作能、面白くて俳句や英語まであって、羽衣はシテが美しく

て引き込まれました。尺八の素晴らしい演奏。音楽の美しさも魅力です。初心者にも楽しめました。また能を観に行きたいと思った公演でした。このような機会をいただきましてありがとうございました。 (50代女性)

口語のですますのお言葉や、珍しい装束など、新鮮でした。またブライズ先生のお考えをお能の世界にて、先生ご本人から示していただけるようで、とても特別な時間と空間と感じました。このような御舞台を観ることが出来てとても幸せでした。 (50代女性)

新作能は大変なご苦労だろうと身に沁みました。(80代女性)

翌日家事の合間に、頂いた詞章を改めて拝見しています。(80代女性)

お能の力なのか、拝見した晩の睡眠が深く、ぐっすり眠れました。(複数人から)